

感情表現に着目した歌詞データからの小説推薦

坂井 麻佑

近年、小説推薦システムの開発に関する研究が多くなされている。その中には、「感情」に着目した小説推薦システムに関する研究が存在する。しかし、我が国において、実用レベルに至っているシステムは存在せず、また、ユーザが皆感情を具体的に説明出来るとは限らない。

そこで本研究では、ユーザに求める感情の具体的な説明を要求せず、コンテンツの題名を例として、ユーザが求める感情を表現する方法を検討する。小説を鑑賞する目的の1つである「感情を得るため」に着目し、鑑賞目的が似ている音楽、特に歌詞に焦点を当てる。歌詞も「感情移入するため」という鑑賞目的があることから、歌の作品名で、ユーザの求める感情を表現出来るのではないかと考えられる。本研究では、歌詞の「感情」に似た小説を推薦し、読書や選書の手助けをするシステムを提案する。歌詞、小説内の感情語を分析し、歌詞の感情遷移と類似している小説を推薦出来るようにする。

提案手法では、まず感情表現辞典と単語感情極性対応表を用いた感情語辞書の構築を行う。次に、歌詞テキストを **Lyrics Master**、小説テキストを青空文庫でそれぞれ入手する。次に入手したテキストを **MeCab** で形態素解析を行う。解析後、構築した感情語辞書を用いて、感情分析を行う。最後に、類似度を算出し、類似度の高いものを歌詞の感情遷移や感情の種類に合った小説として、推薦する。

提案手法をシステムとして実装し、筑波大学生を対象に評価実験を行なった。まず、協力者に用意した曲の中から好きな曲を選んでもらい、歌詞を見ながら曲を聴いてもらう。次に、本システムを利用して推薦された小説と類似度の低い小説を3作品ずつ用意し、シャッフルして協力者に提示し、読んでもらう。読み終わった後、歌詞の感情に似ていると思った小説を3作品を選んでもらう。その結果から、本システムで推薦された小説が、第三者でも似ていると判断するかを確認する。その結果、どの協力者も本システムが推薦した小説を1作品以上選択することが出来、全てランダムに選んだ場合よりも高い結果が得られ、提案手法を基に構築した本システムの有用性を確認することが出来た。

今後の課題として、小説の長さを考慮すること、研究対象者の可読性の考慮、歌詞と小説の距離算出法の再検討の3点による提案手法の改善が挙げられる。

(指導教員 鈴木伸崇)